

きぬちゃん注目の出土品 !!

美しいフォルムをした
(ほぼ) 完全な土器たちだよ!



長瀬高浜遺跡では、なぜかほとんど壊れていない土器が多く出土します。右写真の土器は調理用の煮炊きに使った「甕」という土器で、表面にススがついています。

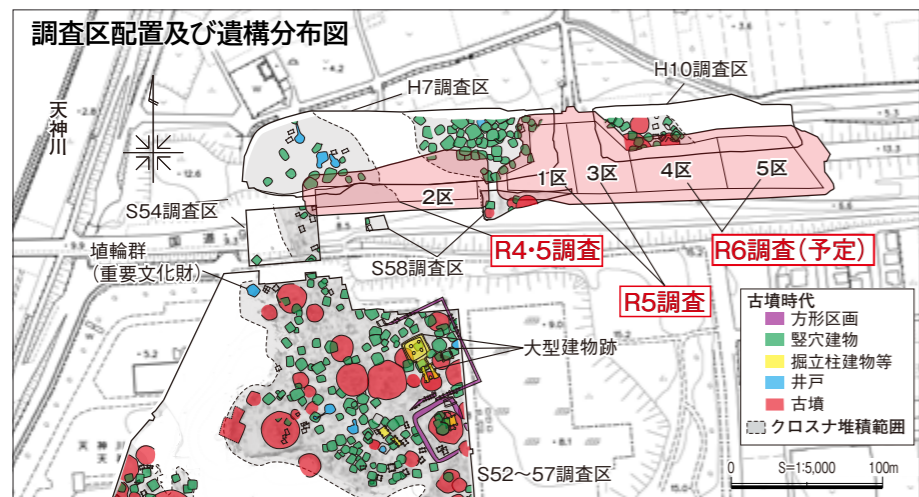
考古学では土器の形や文様で年代を決めるため、こうした完形品はとても重要な資料です。これらの土器についてススを分析して、使われた時代が科学的にも判明すれば、他の遺跡でも基準となる土器になるかもしれません!



ススがついた完全な形の「甕」

今後の調査について

令和5年度は、令和4年度調査地の東側で発掘調査を行います。調査地の北側は平成7年、10年の調査地、南西側は昭和58年の調査地と隣接し、古墳時代の集落跡や古墳、奈良時代から平安時代の建物跡などが発見されることが期待されます。



最新情報コーナー

発掘調査の最新情報はホームページやFacebookでチェック! YouTube公式チャンネルでは、遺跡の解説動画や発掘現場リポートを配信中です!

最新動画 UP!!

長瀬高浜だより
THE MOVIE Vol. 4
大公開!! 空から見た遺跡→



オススメ動画

長瀬高浜遺跡をわかりやすく解説!



YouTube



ホームページ



Facebook



発行機関

公益財団法人 鳥取県教育文化財団 調査室

〒682-0704 東伯郡湯梨浜町南谷 528-1
TEL: 0858-35-5335 FAX: 0858-35-5336
HP: <http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasitsu.html>

北条砂丘の遺跡を掘る!

(公財) 鳥取県教育文化財団調査室広報誌



新・長瀬高浜だより



第2号 2023年5月25日

公益財団法人 鳥取県教育文化財団 調査室では、遺跡の発掘調査や出土品の整理作業など、埋蔵文化財の調査を行っています。令和4年度から一般国道9号(北条道路)改築に伴う長瀬高浜遺跡の発掘調査を開始しました。令和4年度の調査成果と令和5年度の調査について紹介します。

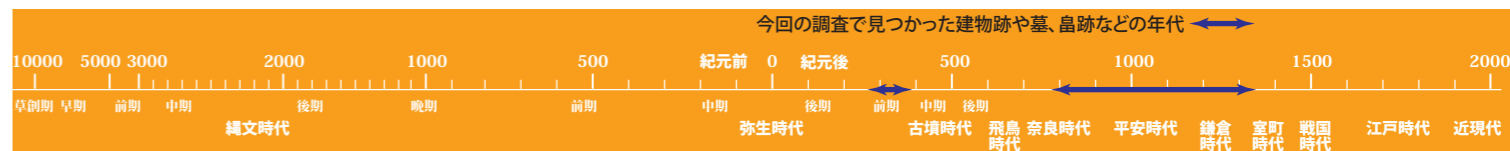


調査地南東側から天神川を望む(令和4年度の調査後空撮)

長瀬高浜遺跡とは? ~遺跡の概要と令和の発掘調査~

長瀬高浜遺跡は、鳥取県東伯郡湯梨浜町に所在する砂丘遺跡です。1974年の遺跡確認以降、下水道処理場建設や一般国道9号改築事業などに伴って行われた発掘調査により、集落跡、古墳などの墳墓、畠跡など、多くの遺構が発見されました。国の重要文化財に指定された埴輪群や、金属製品、大量の土器など遺物も豊富で、鳥取県を代表する遺跡の一つです。

前回の調査から約四半世紀が経過した現在、湯梨浜町はわい長瀬から東伯郡琴浦町槻下までの区間で建設工事が進められている北条道路の工事範囲に遺跡の一部が含まれているため、令和4年度から3カ年の計画で、はわいインターチェンジ付近の約8,500㎡を発掘調査することになりました。



令和4年度 長瀬高浜遺跡2区の調査成果

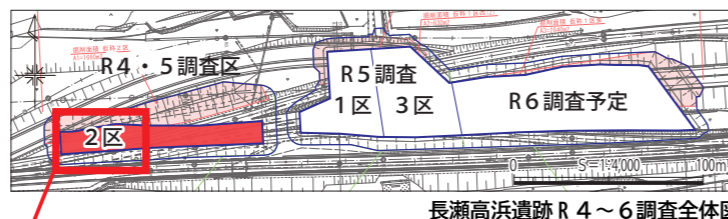
長瀬高浜遺跡2区は、遺跡が広がる砂丘の北西部、標高5～6m前後に位置しています。遺跡は地表下2～3mの、クロスナ層（黒色をした砂層）から見つかっています。このクロスナは砂丘の発達が一旦止まり、植物が繁茂することで形成された地層で、当時は草原のような景観だったと考えられます。気候が安定し、飛砂等に悩まされる心配がなかったため、人々はこの砂丘地に大規模なムラをつくることができたのではないのでしょうか。



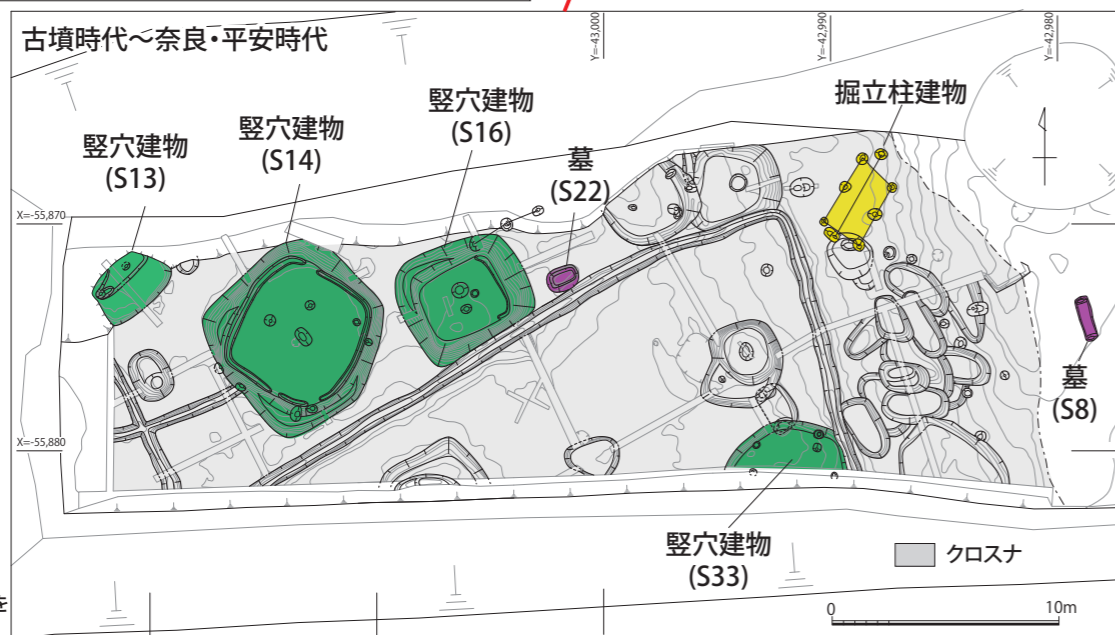
クロスナの堆積状況（黒色をした地層部分）

【調査の概要】

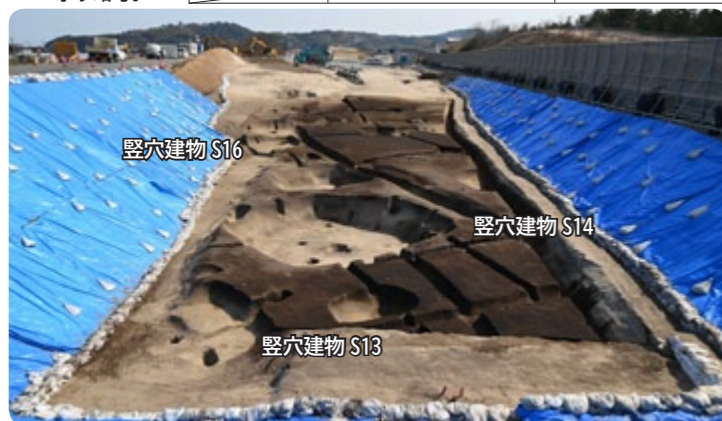
調査地点：長瀬高浜遺跡2区
 調査期間：令和4年12月1日～令和5年3月16日
 令和5年4月5日～5月19日
 調査面積：1,722㎡
 主な遺構：古墳時代の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、鎌倉時代の畠跡など
 主な遺物：古墳時代の土師器、鉄器、石器、管玉、勾玉など



長瀬高浜遺跡R4～6調査全体図



※「S」は遺構を示す略号。



古墳時代～奈良・平安時代全景（西から撮影）



竪穴建物 S14（南西から撮影）

【古墳時代のムラ】

遺跡の中心となる古墳時代では、竪穴建物跡4棟、掘立柱建物跡1棟などが見つかっています。北側に隣接する過去の調査区では井戸跡も確認され、生活痕跡が密集するエリアの一角といえます。今回見つけた竪穴建物はいずれも古墳時代前期のもので、四角い形をしています。そのうち、竪穴建物跡S14は一辺7m前後で比較的規模が大きく、床面積は27.5㎡（たたみ15畳）ほどもあります。掘立柱建物は規模は大きくありませんが、短辺の真ん中にある柱穴が外側に張り出した位置にあり、独立棟持柱建物と呼ばれる、屋根の棟木を外側から直接支える構造であった可能性があります。



【竪穴建物に捨てられた大量の土器】

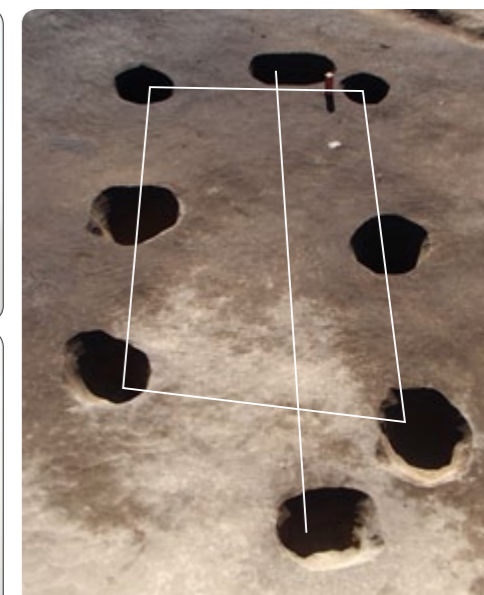
竪穴建物S14からは古墳時代前期の土器が大量に捨てられた状態で見つかりました。その量は500kg以上にものぼり、土器のほかに鉄鍬等の鉄器や管玉なども出土しています。



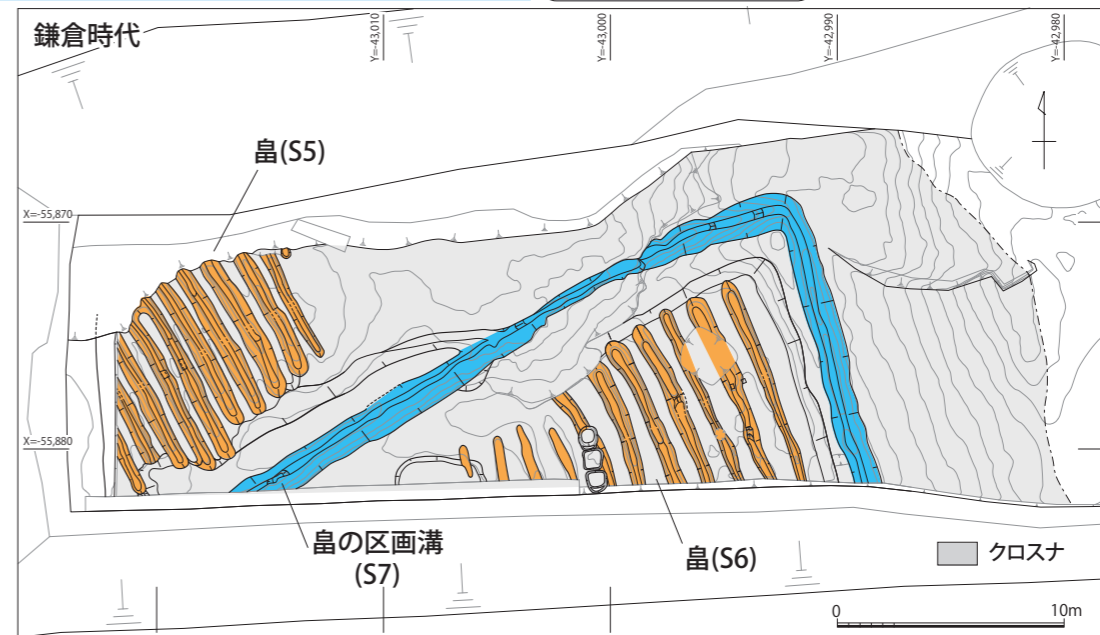
管玉



鉄鍬
鉄のやじり



【掘立柱建物】 掘立柱建物（北東から撮影）



【火葬墓】

墓 S22（東から撮影）

長さ1.3m、幅70cmの長方形の穴から大量の炭とともに骨のかけらが見つかっています。平安時代以降の火葬墓と考えられますが、今後、炭を分析し年代を特定していく予定です。



【鎌倉時代の畠】

2枚の畠跡が見つかりました。畠の凹凸をはっきりと確認することができます。畠を区画する溝も見つかり、作業道としても利用された可能性があります。畠は過去に隣接地で行われた調査でも確認され、鎌倉時代ごろに砂丘上の広範囲にわたって営まれていたとみられます。砂丘でどのような作物がつけられていたかは、今のところよく分かっていませんが、令和5・6年度の調査地でも発見が予想されることから、今後の解明が期待されます。



牛のひづめ跡

【牛の利用】

畠跡からは牛の足跡がたくさん見つかりました。畠の耕作に牛が活躍していたことが分かります。